

作物名：トルコギキョウ

病害虫名：斑点病（病原：*Pseudocercospora eustomatis*）



本ぽにおける発生



育苗床における発生



病斑上の分生子

### 1 被害の特徴と診断のポイント

- ・本病の本県における発生は、平成30年7月に初めて確認された。はじめ、葉に5~10mm程度の退緑斑を生じ、後に葉の裏と表に灰褐色~黒褐色のすす状病斑を形成する。

### 2 伝染源及び伝染方法

- ・糸状菌の一種で不完全菌類に属する。分生子（図5）は単生、淡オリーブ色で0~8個の隔壁を有し、倒棍棒状、大きさは16.1~76.7 μm×3.0~6.3 μmで、分生子柄は淡オリーブ色を呈している。
- ・生態や伝染環についての詳細は不明であるが、本病害は育苗中及び本ぽで発生し、病斑上に形成される分生子により伝染、多湿条件で多発するものと思われる。

### 3 発病・伝染好適条件

- ・本病菌は糸状菌の一種で不完全菌類に属する。
- ・多湿条件を好むため、密植、過繁茂等によって通風が悪い環境では発生が助長される。

### 4 防除対策

- ・本病の登録農薬には登録農薬はダコニール1000(TPN水和剤)、ファンタジスタ顆粒水和剤(ピリベンカルブ水和剤)の他、前作で発生した本病のまん延防止を目的とした土壌処理剤のキルパー(カーバムナトリウム塩液剤)がある(令和3年2月1日現在)。
- ・発病を見つけた場合は、すみやかに発病部位を取り除き、ほ場周辺に放置することなく適切に処分するとともに、薬剤防除を行う。
- ・換気を十分に行うなど、多湿管理にならないよう留意する。

### 5 出典

- (1) 参考文献：宮城県病害虫防除所特殊報第1号（平成30年8月9日発行）
- (2) 写真：宮城県農業・園芸総合研究所撮影